

# 子どもの「生きる力」を育てるために — 親の役割〇カ条づくり —

## ねらい

日常生活をふりかえりながら保護者としての自分の役割を考え、改めて保護者の役割（子どもの「生きる力」をつけることの大切さ）を確認する。

## 対象

幼児から小・中学生の子どもを持つ保護者

## 展開

## 「親（保護者）の役割〇カ条」づくり

## ワーク1

親（保護者）の役割を思いっただけ付せん紙に書き出してみましょう。  
・親（保護者）の役割は付せん紙1枚について一つの事柄を、思いっただけ書きます。

## ワーク2

付せん紙を同じ種類に分類して、まとまりごとに見出しをつけましょう。

## ワーク3

「親（保護者）の役割〇カ条」という形で模造紙にまとめ、発表し合ひましょう。

## ワーク4

できた「〇カ条」を見ながら「生きる力」について考えてみましょう。

## 活用のポイント

## ◎ 展開する際に押さえておきたいポイント

- ・親（保護者）の役割は、すべて子どもの「生きる力」を育てることにつながっていることを押さえましょう。
- ・子どもに「生きる力」をはぐくむことは、学習指導要領の理念にもなっています。（資料編P35参照）
- ・学校・家庭・地域社会が一体となって、子どもの生きる力を育てることが大切です。

## ◎ アレンジアドバイス

- ・ワークを実施した後で、学校の先生から「生きる力を育むための学校での取組」について話をしてもらおうと、学校と家庭の連携がより一層図られます。



テーマ

# いけない親になるために — 家庭教育チェックリストづくり —

Ⅲ-2

ねらい

理想の親になるためにはどうしたらよいのかを話し合うのではなく、意見が出やすいいけない親になるための行動や言動などを出し合うことを通して、日常の子どもとの接し方についてふりかえるきっかけとする。

対象

全保護者

展開

「いけない親になるための〇つの方法づくり」

ワーク1

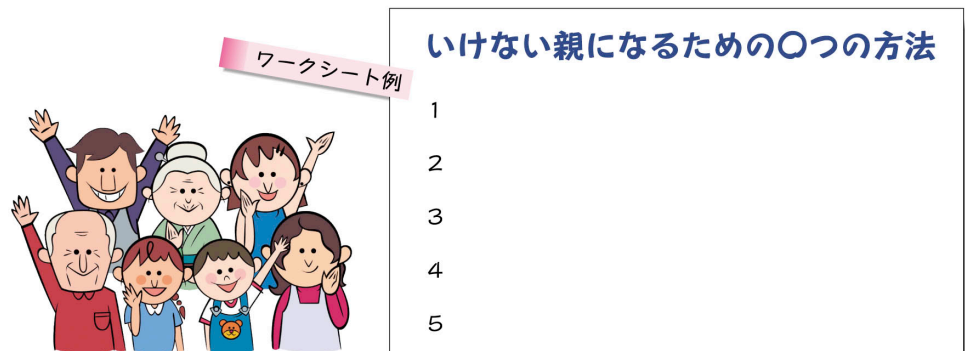
「こうすればいけない親になれる」と思うことがらを、付せん紙で具体的に抽出し、グループで類型化しましょう。

ワーク2

類型化したものを「いけない親になるための〇つの方法」という形でワークシートにまとめましょう。

ワーク3

発表



活用のポイント

◎ 展開する際に押さえておきたいこと

- ・「いけない親」については、自分自身が日頃行っている行動や言動だけでなく、一般的にいけないと言われていることをあげてもよいことを伝えましょう。
- ・「学校を批判する」など現代的な課題となっている行動についても自ら参加して加えていきましょう。
- ・チェック項目を神経質に気にすると、ストレスを抱え込むこととなります。子育ての悩みを、「子縁」で結ばれた仲間同士で話し合いながら解決できる子育てサークルができてくると素晴らしいですね。と最後に一言そえましょう。

◎ アレンジアドバイス

- ・すべての抽出項目をひとつにまとめると、「家庭教育チェックリスト」（資料編 P36 参照）になります。受講生の中から何人かが集まってまとめると、それをきっかけに親たちの交流グループに発展できる可能性があります。
- ・できあがった「家庭教育チェックリスト」を参加していなかったすべての親に配布することもできます。

テーマ

# 子どものこころ、大人のこころ — 子どもたちに伝えたいメッセージ —

Ⅲ-3

ねらい

子どもの心を育てていくために、保護者としてどのようなことを伝えていくべきか、また、大人としてのあるべき姿を考える。

対象

小学生、中学生の子どもを持つ保護者

展開



## ♪エピソード♪

ある日曜日の午後。  
小学4年生のエリカちゃん、お母さんのミカさん、お父さんのリョウさんは、3人で、近所のショッピングセンターに出かけました。日曜の午後ということもあり、ショッピングセンターは人々でにぎわっています。

お店を回りながらしばらく行くと、3人の前を車椅子に乗った女性が進んでいました。混雑している通路を、反対側から来る人とぶつかりそうになりながら、ゆっくりと進んでいます。その様子をエリカちゃんはじっと見つめていました。

- ワーク1** エリカちゃんはどんな気持ちで見つめていたのでしょうか。話し合ってみましょう。
- ワーク2** あなたがエリカちゃんの親だったら、このときどのように対応しますか。
- ワーク3** 子どもの心を育てる場面として、他にどのような場面が考えられますか。  
(例: 路上にゴミを捨てる人を見かけた 等)
- ワーク4** 親として、子どもたちに伝えたいメッセージにはどのようなことがありますか。また、親として今後できることはありますか。話し合ってみましょう。

## 活用のポイント

### ◎ 展開する際に押さえておきたいこと

- ・子どもにメッセージを伝える方法は、言葉を介してだけではありません。様々な方法を考えてみましょう。
- ・子どもは1度聞けばすぐに親からのメッセージを理解するわけではないことを押さえましょう。様々な場面において繰り返し伝えていくことが大切です。
- ・子どもの心を育てるためには、保護者自身が様々な機会を通して学んでいくことも必要です。話し合いに関係する学習機会の情報等を提供してもよいでしょう。

### ◎ アレンジアドバイス

- ・時間が短い場合には、ワーク1と2を合わせて実施することもできます。
- ・障害のある方への理解を深めるきっかけとして展開してもよいでしょう。